

# 学力向上を図るための全体計画(体力:規範意識向上もともに図るための全体計画)

平成28年7月20日  
大田区立志茂田小学校長

—スローガン:すきなもの・すきな人を増やそう(1学期)—

合言葉 4つのS 安全(セーフティ)、精神(心:スピリット)、学習(勉強:スタディ)、運動(スポーツ)

## 【法令等 教育の動向】

- ・教育基本法、学習指導要領「生きる力」
- ・東京都教育委員会教育目標
- ・大田区教育委員会教育目標
- ・おおた教育振興プラン(新)
  - 学力向上
  - 人間力向上
  - 一人一人に向き合う教育
  - 教員の指導力向上
  - 地域と共に歩む学校づくり
  - 体力向上・英語カフェ
  - サポートルーム開始(H28, 4~)

## 学校教育目標

- 人権・生命尊重と社会貢献の精神に基づき心身共に健康で豊かな知性と感性に富み、郷土を愛し、自ら社会貢献に寄与しようとする人間性豊かな児童の育成
- ・よく考え工夫する子
  - ・いつもねばり強くがんばる子
  - ・こころ豊かに助け合う子

## 【実態 要請】

- ・児童の実態(理解力判断力があるが、自発的表現力に欠ける、読書好き、放課後の生活習慣の乱れ)
- ・地域の願い
- ・保護者の願い
- ・学校支援地域本部の存在

## 学校経営方針

- ～全ての児童が安心して、個性や能力を十分に発揮し、達成感を味わえる生き生きとした明るい学校を目指す～
- ① 安心できる学校(子どもたちが明るく元気な学校)
  - ② 個性や能力の発揮できる学校(子どもたちが学び合い、学ぶ楽しさが実感でき、充実感のある学校)
  - ③ 使命を自覚する学校(互いに研鑽し合い、教職員一人一人が自らの資質の向上に勤める学校)
  - ④ 地域の特性を生かした学校(保護者地域に開き、信頼される学校)  
楽しい学校～夢の実現のために日々の生活がある～

## 特色ある地域環境を生かす

- 学校に協力的な地域(学区は一町会にある)
- 隣接した中学校  
学区内公立保育園、学童の存在

## 特別支援学級があるよさを生かす教育

- ・豊かな心を育む
- ・他者理解、相互理解
- ・多くの視点で児童をみる

## 各教科の指導の重点

- ・基礎的な学力の定着
- ・思考力、判断力、問題解決能力の育成
- ・表現力の育成(自分の声、言葉、作品で表す等)
- ・計画的で積み上げのある教育活動、体験活動の重視、読書量の増加
- ・学習意欲の向上、学習習慣の確立
- ・地域資源の教材化
- ・互いに学び高めあう場の設定
- ・学校図書館の活用(進んで学ぶ子へ)
- ・体力向上プログラムを基にした活動(一校一取組 持久走大会、縄跳び)

## 生活指導の重点

- ・生命・人権尊重、規範意識の高揚
- ・全教員による児童理解、個に応じた指導への対応(いじめを許さない体制、本校基本方針策定)
- ・挨拶の励行と美しい言語環境の整美(言葉づかい)
- ・保護者との連携
- ・危機管理体制の充実
- ・廊下歩行(右側通行)の徹底
- ・学校拠点校として地域との連携

## 本校における確かな学力

- 学習指導要領に示された各教科・領域の内容を押さえ、次の力を育成する。
- ① 基本的事項の習得の徹底
    - ※国語の教科書が読める(音読重視、漢検)
    - ※宿題(家庭学習)の徹底(10×学年)の宿題を出す(自主含む)
    - ※ベーシックドリル(算数)とフォローアップシートの活用(4教科)
  - ② 基礎基本を活用した思考力、判断力、表現力の育成
    - ※問題解決学習、図書の活用
    - ※発表の場の設定、話し合い活動、**スピーチの機会**
    - ※書く時間の確保
  - ③ 体験的活動により自ら探求する力の育成 学んで動くって楽しい!
    - ※授業は、全員挙手から始まる ※実物または近い物から学ぶ
    - ※地域を生かした学習 \*総合の授業の充実
    - ※日々の授業の意味づけ、日々の授業の充実

## 道徳教育の指導の重点

- ・自他共に生命尊重
- ・礼儀、思いやり、公德心
- ・善悪の判断力、忍耐力
- ・自尊感情
- ・話し合い活動

## 総合的な学習の時間の重点

- ・自ら課題を見つけ、よりよく解決する力の育成
- ・環境教育、自然体験活動
- ・コミュニケーション能力の育成
- ・安全・防災について適切な判断力の育成
- ・地域の伝統・文化のよさに気づき大切にする態度の育成
- ・生命尊重の取組(指導と評価を意識した単元の実施)

## 特別活動の指導の重点

- ・集団の一員としての役割をもち、自主的・実践的態度の育成(一歩前へ)
  - 全校ボランティア活動の実施
- ・人とのかわり、思いやり・協力する心の育成、**保幼小連携**
- ・異学年交流の推進(全校、各学年も)
- ・地域の方との交流

## 進路指導の重点

- ・個性の伸長と主体的に生きる力の育成
- ・自信と希望を持ち、目標に向け努力する態度の育成
- ・中学校との円滑な連携
- ・地域の人々との連携

## 外国語活動の重点

- 外国語活動の確実な実施
- ・国際理解教育の推進 理解とコミュニケーション能力の伸長
  - ・英語カフェの実施(5・6年)

## 自尊感情 自己有用感

- やればできる すきなもの・好きな人(できるもの)を増やす  
小さな努力でも賞賛あり 子どもに楽しさを!心の強さを!  
それぞれの子どものよさを明らかにする  
発表の機会を多くとる 認め合い励まし合い高め合う授業  
教師が手本であり、身近な支援者  
学習や悩みを受け止める 学習内容だけでなく学習の目的を教える  
生活習慣の確立(家庭との連携が重要)
- ライン等の約束、ゲームの時間限定(1時間迄に、特別な日も2時間迄)**  
テレビを消し宿題、**週1冊読書** 外遊びの励行、手伝いの習慣化  
規範意識向上  
約束を守る(学校・放課後・家)、交通規則の順守  
安全管理・危機管理意識の向上  
リアルトレーニング、日ごろからの意識を高める

## 本校の授業改善・生活指導改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫・校外研修	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	児童理解・その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の改善内容を年間計画へ書き込み。</li> <li>重点改善内容は、週案に色別書き。(特に音読・書く活動・話し合い活動・発表)実施後も記録。</li> <li>学校図書館の活用。</li> <li>体力向上・規範意識向上プログラムの活用。</li> <li>ノート指導(書く活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を見通した予定時数の割振り。</li> <li>朝の学習時の工夫。(音読、読解)</li> <li>ベーシックドリル・フォローアップシートの活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の考えを表現しともに学び合う子どもの育成」</li> <li>話し合い活動を取り入れた算数の授業を通して授業研究を行う。</li> <li>事前授業の公開授業。</li> <li>他校への出張、講師依頼</li> <li>OJT研修の充実</li> <li>自主研修(若手)の充実</li> <li>初任者の年3回授業公開。</li> <li>教員は児童の宿題時間分は、教材研究を行うことを目標。</li> <li>教員同士の授業観察、研鑽。(通常と特別支援で見合う)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導と評価の一体化を図り評価を指導に生かすこと。</li> <li>変容を見とり評価。</li> <li>学年による通知表所見の検討。</li> <li>毎月、個へ称賛を欠かさず実施。</li> <li>特別活動や総合は、担任外からの情報を取り入れ評価を検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との会話の工夫。</li> <li>保護者会に参加したくなる様な工夫</li> <li>保護者によさを伝える努力。</li> <li>地域行事への参加、地域巡回。</li> <li>家庭学習の定着化。</li> <li>補習教室の参加への働きかけ。</li> <li>保育園との連携の拡充。</li> <li>ホームページによる発信。(児童の様子も)</li> <li>関係機関との連携。(子家セン、福祉課、児相)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導のあり方を学ぶため特別支援級、通常の級の授業観察。共同学習推進。</li> <li>地域見回りや放課後実態把握。</li> <li>計画実施検証そして再度次年度計画を担当者が行事2週間を目安に提案、夏季休業中に骨子計画。</li> <li>サービス事故防止研修を各担当が担い、事故をゼロに。</li> <li>児童への指導法・対応は、一人で悩まず、組織で検討</li> <li>スクールカウンセラーの積極的な活用。</li> </ul>

# 平成28年度 授業改善プラン

## 1. 昨年度の改善プランに対しての検証

- ① 「言語活動の推進」では、東京都教育委員会言語能力向上推進校・拠点校として、思考力・判断力・表現力を培うために、国語科・算数科を中心に、言語活動のねらいを明確にした授業展開について研究を進め、授業改善を図ってきた。国語科では、単元を貫く言語活動、生きる力となる国語科の授業について、算数科では、自分の考えを友達の考えと比べて、思考力をより深める授業について充実を図ることができた。また、国語の授業に限らず、朝の学級活動や全校朝会など学級・学年・学校全体の場で、全児童がスピーチを3回以上できた。
- ② 「学習指導方法の工夫・改善」では、国語科・算数科で行った研究授業での成果を全学年に周知し、全校で取り組むことができた。国語科では、単元を貫く言語活動の教師見本を元に、動機付け、どのようにしたら目標に達することができるか主体的に考え授業を進める指導法に取り組んだ。算数科では、問題・めあての把握、自力解決できるための見通しを確実にもたせること、自力解決、思考を深めるための交流、振り返りなどの学習活動をパターン化し、児童にとって分かりやすい授業の展開に取り組んだ。
- ③ 「学習指導体制の工夫・改善」では、2年以上の算数科での習熟度別指導を行った。習熟度に合わせて、基礎的な学習を徹底して身につける工夫、発展的な学習に取り組ませることによって意欲をもたせることができた。また、算数科以外の学習では、一斉授業以外にも、グループ別によるディスカッションやペア学習によって、自分の考えを話しやすい場を作ることができた。
- ④ 「基礎学力の徹底」では、算数科を中心に、成果を導き出すために平日補習、土曜補習、夏季補習などを行った。土曜補習では、全教員が順番に指導に当たり、ほぼ個別指導に近い形でつまずきの克服への手立てができた。夏季補習では、5日間の参加率が学校全体で8割を超え、短い期間ではあるが、集中して取り組むことができた。夏季補習では、大田区漢字検定に向けての練習も取り入れ、大田区漢字検定の合格率は9割を超える成果をあげた。
- ⑤ 「読書活動の推進」では、本校独自の活動、読書紹介カード“shimozon”により、読書の継続的な紹介活動ができた。友達の薦めた本を読んだり、お話会で紹介された本を読んだり読書の質も広まった。「スクールサポートしもだ」のコーディネーターや読書ボランティア、地域の図書館の協力を得て、図書室・図書コーナーの充実を図った。また、図書サポ（学校支援地域本部）の方による読み聞かせも全学年計画的に行い、児童も楽しみにしていた。国語科研究の講師として招いた寺井正憲先生により、読書活動の充実を図った。また、「読書から広がる夢」「多摩川図書館の10回利用で表彰」など、読書活動の推進が図られた。
- ⑥ 「教員の授業力向上」では、研究授業を一人一回行い、研究部会での授業検討、授業後は全体での検討を行い、研究授業を学校全体で共有できるようにした。また、定期的にテーマを決めて研修会を行い、全体的な指導力の向上を図った。日常的には、いつでも他のクラスの授業を参観できる雰囲気を持ち、意見交換できるようにした。
- ⑦ 「落ち着いた教室の創造」では、落ち着いた生活と、学力向上は大きく関わっていることから、生活指導部会、研究部会を中心に、落ち着いた教室の創造に向けて話し合いを行って、教員同士で情

報を共有できるようにした。どの学年学級も落ち着いて学習に取り組むことができた。朝会での話の聞き方もよくできている。特に、高学年が見本となれるような雰囲気を作ることができている。

- ⑧ 「家庭・地域との連携」では、主に、「スクールサポートしもだ」のコーディネーターによる体験授業・夏休みわくわくスクールの実施により児童の主体的な学びを重視することができた。また、「家庭の学びのすすめ」により、10分×学年の家庭学習の定着に努めた。「早寝早起き朝ご飯週間」は、生活習慣を見直すよい機会となるが、大田区で決められている5月10月以外にも、8月の登校日以降の1週間も取り組み、2学期のスムーズな学習習慣への移行を行うことができた。
- ⑨ 「中学校との連携」では、小中一貫教育を目指し、中学校との連携を密にすることができた。中学校生活指導主任による出前授業、生徒会の説明会や体験授業、研究授業の参観、生活目標「みらいのわたし」の統一、など隣接している特性を最大限に活用したため、円滑な小学校と中学校との接続ができた。

## 2 学習効果測定の結果から

### <国語>

どの学年でも、国語の校内平均正答率が目標値を上回っている。

問題の内容別正答率では、「話し合いの内容を聞き取る」、領域別正答率では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、観点別正答率では、「話す・聞く能力」、「書く能力」で目標値に届いていないものがあつた。

このことから、国語については校内研究でも取り上げて重点的に全校で授業改善に取り組んできた成果が上がっていると考えられる。しかし、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域にやや課題がみられるため、今後、指導を充実させていきたい。

特に、必要な情報を取捨選択して聞き取る力、聞き取ったことをまとめる的確に表現する力を育てることが必要である。また、自分の考えやわかったことをノートやワーク・作品にまとめ、書かせたきりにならず、必ず、教師からのコメントや友達とで見合ったり、感想・意見を話しあったりさせていく。国語の他の領域との関連を意識して指導していくようにする。また、国語の授業の中で身に付けた力を他の教科等の中でも活用していくことで、一層の学力向上を図っていく。

### <社会>

どの学年も教科の正答率が目標値を上回っている。内容別、観点別に見ても目標値をすべて上回っている。点数があまり高くないのは、先人の働きや県（都）の様子である。

このことから、今後は、児童が社会的事象を表面的に理解するのではなく、自分の経験や地域教材と結びつけて理解を深めるとともに、学習したことを自分の生活に生かしていくことができるようにしたい。そのためには、問題解決的な学習を一層推進し、他の事象と関連させながら考察する活動や、考察したことを記述したり話し合ったりする活動を十分に行っていく。

### <算数>

どの学年も正答率が目標値を超えている。ただし、領域別正答率を見ると、「量と測定」がふるわない学年が見られた。

東京ベーシックドリルや大田区ステップアップ学習プリント等を活用し、基礎的な計算の量をこなすことも確実な定着につながると考えられる。

<理科>

どの学年も正答率が目標率を超えているどの学年も目標値を超えているが、目標値に達していない観点別正答率を見ると、「関心・意欲・態度」、「自然事象についての知識理解」である。領域で見ると5年の「物質・エネルギー」であった。今後、理科学語の確実な定着が必要である。

### 3 授業改善に向けた視点

#### ① 基礎学力の徹底

国語の読み物単元は、必ず全員に音読をさせ、単元ごとに音読の評価をしていく。4年生以上は、大田区効果測定結果資料のフォローアップシートの4教科分を日ごろから宿題や補習として渡し、前学年までの個々の弱点補強をさせる。算数科を中心に、平日補習、土曜補習、夏季補習などを行う。夏季補習では、大田区漢字検定に向けての練習、東京ベーシックドリルの算数を行う。夏季補習中、特に算数の指導が必要な児童には、前学年の算数単元を絞って指導していく。土曜補習では、全教員が順番に指導を割り当て、少人数で指導にあたる。

#### ② 教員の授業力向上

定期的にテーマを決めて研修会を行い、全体的な指導力の向上を図る。他のクラスの授業を参観できる雰囲気を持ち、意見交換できるようにする。通常の学級（担任・専科）と特別支援学級（言語通級担任・サポートルーム教員）とで授業を見合うことで、提示の仕方など、日ごろとは違った視点で授業作りに生かす。管理職も、教員も共通の相互評価カードで見とり、各教員の年間の課題に合わせた協議ができるようにする。

改善指導案（略案）は、校内共有資料として電子データでいつでも見られるようにしておく。

また、校内のOJT研修により、板書・発問の工夫、机間指導の仕方、指名の工夫等を学び合わせる。

各教科主任が、他校の指導教諭の模範授業を参観し、そこで学んだことを校内の他教員に報告することで授業力向上に努めていく。

#### ③ 学習指導方法の工夫・改善

めあてを明確にした授業を展開し、児童にとって分かりやすい授業となるようにする。振り返りに重点を置き、理解が低い場合は復習を行う。教師の発問は、児童相互の様々な意見が出るような発問を工夫し、児童相互が学び高め合う授業作りをしていく。授業の初めに全員挙手、あるいは全員が声を出すことで、授業の開始時に児童全員が授業への参加意欲をもたせられるようにする。

一時間の授業のまとめや感想などノートやワークに書かせる活動を入れていく。書いたものは、翌日までに教師や友達が見るようにし、書かせたきりにせず、次時の授業に生かしていく。

体験的な学習を通し、児童が主体的に実感できる学習を大切にする。グループ別指導、ペア学習など様々な授業形態を実施し、児童が分かる授業、一人一人が達成感を味わえる授業を展開する。

#### ④ 読書活動の推進

読書紹介カード“shimozon”により、読書の質を広める。また、学校支援地域本部の図書サポや地域の図書館の協力を得て、図書室・図書コーナーの充実、読み聞かせの充実を図る。また、シリーズ本の紹介活動により、読書の量を増やし、読書による「読みの基礎体力」を見に付ける。

#### ⑤ 生活指導と学習指導の関連づけ

学習時の約束（志茂田小の約束と志茂田小の発表、聞く、話す約束）を丁寧に指導し、徹底させる。

学習に落ち着いて取り組ませるためには、生活指導や道徳の授業の充実を図る。特に毎月の生活目標を周知し、早寝早起き朝ご飯週間、あいさつ週間、家庭学習週間など、基本的な生活習慣が定着できるように取り組みを行う。

#### ⑥ 家庭学習の定着、宿題の出し方

「家庭の学びのすすめ」により、10分×学年の家庭学習の定着に努める。宿題の内容が学年にあっているかを夏季休業中に検討し、学年に合った宿題を出す。また、基礎学力定着のための宿題の他、思考力を伸ばす学習等も工夫して出していく。定着しにくい部分の学習内容は、意図的に宿題として反復学習させるようにする。担任は、やってきた宿題を確実に見る。家庭学習週間を設定し、家庭学習チェックカードを活用する。

#### ⑦ 家庭・地域との連携

「スクールサポートしもだ」のコーディネーターによる体験授業・夏休みわくわくスクールを引き続き行い、児童の体験的な学びを重視する。また、「家庭の学びのすすめ」により、学年×10分の家庭学習の定着に努める。チェックカードを活用する。「早寝早起き朝ご飯週間」は、生活習慣を見直すよい機会となるため、昨年度と同様に、大田区で決められている5月10月以外にも、8月の登校日以降1週間取り組ませ、2学期のスムーズな学習習慣への移行ができるようにしていく。道徳授業地区公開講座や学校公開などで本校の教育活動のうち重点内容を、保護者・地域に理解していただき、協力を要請していく。

#### ⑧ 中学校との連携

小中一貫教育を目指し、中学校との連携を密にする。生徒会の説明会や体験授業、研究授業の参観、生活目標の統一、中学校教員による生活指導、夏季補習教室の際の中学校生徒による採点ボランティア等、隣接している特性を最大限に活用する。また、校舎改築に伴い、給食室、プール、校庭、体育館などを共有することにより、さらなる連携が期待される。

## 4 授業改善プラン

### <国語> 改善のポイント H28

必要な情報を取捨選択して聞き取り、自分の言葉でまとめて表現する力、自分の考えを豊かな語彙や表現方法を使って書く力を育てること

#### (1) 学習効果測定の実績

どの学年でも、国語の校内平均正答率が目標値を5ポイント以上、上回っている。観点別正答率では、「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」はどの学年も目標値を上回っている。

#### (2) 課題

問題の内容別正答率では、「話し合いの内容を聞き取る」、領域別正答率では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、観点別正答率では、「話す・聞く能力」、「書く能力」で目標値に届いていないものがあつた。

このことから、国語については校内研究でも取り上げて重点的に全校で授業改善に取り組んできた成果が上がっていると考えられる。しかし、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域にやや課題がみられるため、今後、指導を充実させていきたい。

#### (3) 改善策

特に、必要な情報を取捨選択して聞き取る力、聞き取ったことをまとめた的確に表現する力を育てることが必要である。また、自分の考えを豊かな語彙や表現方法を使って書く力を育てていく。授業の中で自分の考えやわかったことを書く際には、教師がモデルとなり書き方を示す。国語の他の領域との関連も意識して指導していくようにする。また、国語の授業の中で身に付けた力を他の教科等の中でも活用していくことで、一層の学力向上を図っていく。

### 1年

観点	現状	改善に向けての方策
国語への 関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"><li>平仮名の学習に意欲的に取り組むことができている。</li><li>読書が好きで読み聞かせも興味をもって聞いている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>読み聞かせの機会をたくさんつくる。</li><li>学級文庫を充実させたり、並行読書を薦めたりし、本に親しむ環境を意図的につくる。</li><li>並行読書を積極的に取り入れる。</li><li>言葉遊び、言葉集めの活動を通して、国語に関心をもたせていく。</li></ul>
話す・聞く 能力	<ul style="list-style-type: none"><li>自分の思っていることをはっきり話せるようになっている。</li><li>人の話をよく聞ける児童はいるが、必要な情報を聞き取ることができない児童もいることが課題である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>日直のスピーチを始めて、人前で話したり、聞いたりする活動をたくさん取り入れる。</li><li>大事なことを落とさずに聞き、質問をしたり、感想を言ったりする場面をつくる。</li></ul>

書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な文章が書けるようになっている。</li> <li>・平仮名の使い方、句読点の打ち方が不十分なため、書きたいことがうまく表現できない児童が多いことが課題である。</li> <li>・特殊音節を理解していない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳に宿題や簡単な連絡を書いたりするなど、日常に書く活動をたくさん取り入れ、書くことに慣れさせる。</li> <li>・視写の機会を増やし、たくさんの文型に触れる。</li> <li>・朝学習の時間を利用し、文章を書く機会を増やす。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習で毎日音読を行い、多くの児童が意欲的に何度も読んでいる。</li> <li>・文字だけでは、読み取ることが出来ない児童がいる。</li> <li>・リズムよく読んだり、会話文を人物になりきって読んだりするなど、工夫して読むことができています。</li> <li>・登場人物を捉えたり、内容を理解したりすることは、よくできています。</li> <li>・登場人物の心情を読み深めることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読の学習を継続して行う。</li> <li>・いろいろな読み物に触れさせる。</li> <li>・文章を指でなぞらせながら、音読をする。</li> <li>・音読劇や役割読みなどを行い、場面や人物の様子を想像しながら楽しく読めるようにする。</li> <li>・読書紹介カードを活用し、登場人物の心情を書き、考える機会を多く設ける。</li> </ul>
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢、口形に気を付け、はっきり発音することを意識するようになっている。</li> <li>・長音・拗音・促音や「はをへ」の学習を行ったが、文章中で正しく使うことができない児童が多いことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ言語事項を文の中で使えるよう、繰り返し練習する機会をつくる。</li> <li>・漢字の正しい筆順を覚えさせ、文字の成り立ちや形に関心をもたせる。</li> </ul>

## 2年

観点	現状	改善に向けての方策
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文の学習には意欲的で、読み聞かせも好きである。説明文には苦手意識をもつ児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書紹介カード「shimozon」の活用を引き続き行い、友達と感想を伝え合う。</li> <li>・並行読書の場を用意し、目的意識をもって読書する姿勢も養う。</li> </ul>
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日直のスピーチでは抵抗感なくできている。また、聞いている側も内容に応じた質問をしていると共に、発表側も質問に対する返答ができている。</li> <li>・場に応じた話し方の使い分けが身に付いていない様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より具体的に伝えられるよう、徐々にスピーチ原稿を長くしていく。</li> <li>・話形を常に示すようにし、場に応じた話し方を意識できるようにする。</li> </ul>

書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文に対して抵抗はない様子だが、順を追って書くことや、必要なことを押さえて書くことが苦手な児童が比較的多い。</li> <li>・かぎ括弧や句読点を必要に応じて用いることができない様子が見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の作文の他に、引き続き週末の宿題として短い作文に取り組みせ、作文の決まりを指導し、定着させていく。</li> <li>・「かくってたのしいね」を用いて、定着を図る。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書や音読の活動には好んで取り組んでいるため、長い文章を読む力は身に付いているものの、読み取る力が弱い様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵などを有効に活用し、場面の様子を想像しながら読むことで、内容を読み取りやすくする。また、指示語なども細かく確認することで、読み取る力を養っていく。</li> </ul>
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の学習にはほぼ全員の児童が意欲的に取り組む。しかし定着に差があり、作文で用いることを苦手としている様子が見られる。</li> <li>・話し言葉と書き言葉の使い分けができないことも課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き漢字テストを定期的に行うことで定着させると共に、文章を漢字で書く問題にも取り組み、意味も定着させていく。</li> <li>・書いたものの読み返しや友達と見合う機会を設け、見直しができるようにする。</li> </ul>

### 3年

観点	現状	改善に向けての方策
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が好きな児童が多く、シモゾンも意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・物語や説明文の読み取りを楽しめる児童が多く、いろいろな考えを出し合うことができる。</li> <li>・作文に苦手意識をもっている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動や読み聞かせの時間を確保し、更に意欲を高めていく。</li> <li>・読み取りが難しい児童にも、他の児童の意見を聞いて、考え方を身に付けさせる。</li> <li>・日記を継続して行う。組み立てを意識して少しずつ書ける量を増やしていく。</li> </ul>
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に自分の考えを伝えようとする児童とそうでない児童との差が大きい。</li> <li>・全体的に、人の話を最後まで聞くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話合いを充実させながら、少しずつ一人一人が全体で発表する場を設ける。</li> <li>・聞く姿勢を常に意識させる。</li> </ul>
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文への抵抗感があつたが、書くことにだいぶ慣れてきた。</li> <li>・組み立てを意識して書くことには課題のある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組み立てを意識させ、一つ一つ確認しながら進めていく。</li> <li>・書いたものを読み合い、よいところを見つけて認め合う。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文への学習は意欲的に取り組むが、登場人物の心情や場面の移り変わりを正しく読み取れる児童が少ないことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題や授業内での、音読を積極的に取り入れ、読む力を高めていく。</li> <li>・登場人物の心情や、出来事の変化に注意しながら叙述を基に考えられるようにする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文では、問いと答えの関係を理解し、説明文の読み取りができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文では、段落相互の関係に注意しながら、書かれていることの中心を明確に読ませる。</li> </ul>
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テストでは正しく漢字を書けるが、文章の中で積極的に使える児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典を日常的に活用する習慣を身に付けさせ、言語に慣れ親しむ環境を整える。</li> <li>・文の中で漢字を習得する練習を重ねる。</li> </ul>

#### 4年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を上回り、国語への関心・意欲・態度が定着されていると考えられる。</li> <li>・話を聞くことに関する関心・意欲・態度は目標値を上回っている。</li> <li>・書くことに関する関心・意欲・態度は、目標値に至っていない。</li> <li>・読書や漢字練習などに、積極的に取り組む児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書への関心はある児童が多いので、読書時間の確保、読書紹介活動などを引き続き行う。</li> <li>・書くことに関する関心・意欲・態度については、「書くってたのしいな」の活用や、「季節の手帳」の継続的活用を通して、抵抗感を減らすと共に、段落を分けて書くこと・文の構成を考えて書くことなどの技能を身に付けさせる。</li> </ul>
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。</li> <li>・話を聞き取ることはできているが、自分の伝えたいことを詳しく的確に話すことは難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝会での校長講話の聞き取りテストの活用など注意深く聞くことを意識させる。</li> <li>・日直のスピーチを継続的に行い、話すことへの抵抗を減らす。</li> <li>・スピーチでは、伝えたいことを的確に話せるようにポイントを示す。</li> </ul>
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値に至っていない。特に正答率が低かったところは、文章を指定の長さで書くことであった。また、資料を読み取ったことから考えたことを書くことも正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、自分の考えを書く場合、構成を考えて書く。はじめ・中・終わりの構成を意識させ、段落の使い方や、ある程度の長さの文を抵抗なく書けるようにする。</li> <li>・日常の出来事をつぶやける「思い出の手帳」を活用させる。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。説明文・物語文共に、読み取る力は付いていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取りのテストでも、正答率が高い。授業では、教科書の文だけでなく、並行読書を活用している。児童の興味関心をもった読み物を読むことにより、さらに、読む力が付くと考えられる。</li> </ul>
言語についての知識・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。漢字の習熟はよくされていると考えら</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟できた漢字を活用できるように、作文指導を行う。</li> </ul>

理解・技能	れる。 ・日常の文章の中で習った漢字を使うことが定着できていない。	・文章中の平仮名を漢字に直す学習を取り入れる。
-------	--------------------------------------	-------------------------

5年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
国語への 関心・意欲・ 態度	・学習効果測定の結果から、目標値に達している。 ・読書や漢字に対して意欲的、自主的な取組に個人差が大きいことが課題である。	・朝読書や図書の時間に、教師側から本を紹介して幅広い分野の本に出会わせる。 ・漢字ミニテストを週に1度行い、自主的に漢字の練習をするよう促す。
話す・聞く 能力	・学習効果測定の結果から、話し手の意図を考えながら話の内容を聞くことはできているが、メモを取ることが課題である。 ・朝のスピーチや授業中の発表で、自分の考えを相手に伝えることが課題である。	・小グループでの話し合いの中で、自分の考えと友達の考えを比較し、メモを取りながら聞くなど、より考えを高め合う活動を行う。 ・どんなことを中心に話しているのか気を付けて聞くよう指導する。
書く能力	・学習効果測定の結果では、昨年度と比べて伸びが見られ、目標値を上回っている。 ・作文を書く力が定着している。	・書きたいことを決めたら、メモを書かせ、自分の考えを整理できるよう指導する。 ・読書紹介カード「shimozon」を活用し、決められた範囲内で文章をまとめられる活動を取り入れる。
読む能力	・学習効果測定の結果では、昨年度と比べて伸びが見られ、目標値にも達している。 ・資料と話し合いの内容を関連付けて考える力が不足している。	・文中の重要な言葉に着目させたり、登場人物の心情を類推させたりするなど、文の読み取り方の指導を継続して行う。
言語について の知識・理 解・技能	・学習効果測定の結果から、目標値に達している。 ・漢字が定着するまでに時間がかかることが課題である。 ・日常の文章の中で習った漢字を使うことが定着できていない。	・文章を読み進めていく中で、文の構成や前後の文脈について学ぶ時間を設ける。 ・漢字の練習、漢字ミニテストの練習を家庭学習に位置付け、言語についての知識を身に付けさせる。 ・文章中の平仮名を漢字に直す学習を取り入れる。

6年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
国語への 関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値を上回っており、区の平均に達している。</li> <li>・全体的に、国語に関心をもって取り組むことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書への関心が全体的に見ると、高くない。個人的に見ると、本が好きな児童も多くいる。学年全体で、本に親しむ態度を養っていくようにする。</li> </ul>
話す・聞く 能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、昨年度を下回り、目標値、区の平均値に達していない。聞き取りの問題において、話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことについての問題の正答率が低いことが課題である。</li> <li>・普段、日直のスピーチを行っているが、内容に対する自分の考えを深めることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手の意図を考えて話を聞く機会や、聞いたことを基に自分の考えを記述する活動を多く取り入れる。</li> <li>・自分の考えがなぜそこに至ったのか、理由を明確に述べられるような場を設けていきたい。</li> </ul>
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、昨年度から伸びており、目標値、区の平均には達している。中でも、2段落構成の文章を書く問題は、昨年度から10ポイント以上上回った。資料と話し合いを正しく読み取り、適切に書き直す問題では、他の問題と比べると目標値を上回ってはいるが、54.7と低かったので課題であるといえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことへの抵抗は少なくなってきた。引き続き、作文や詩を書くなどの活動を行う。</li> <li>・書いた物を友達と交流したり、感想を交流したりする活動を多くもつ。</li> <li>・国語に限らず、自分の考えや友達の考えを聞いて自分の考えが深まったり広まったりしたことなどを表現できるような機会を多くする。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、昨年度から伸びており、目標値、区の平均には達している。ただ、登場人物の様子を読み取る問題と、段落のまとまりを考えながら読み取る問題が、目標値を下回っている。文章の内容を読み取ることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シリーズ本の紹介活動などを通して、読書の量を確保する。十分な読書の量を読むことにより、読み深める力を育てる。</li> <li>・比べ読みや推敲などの読みの工夫により、より深く読み取ることができるようになる。</li> <li>・読書の紹介活動を通して、読書の幅を広げる。</li> </ul>
言語について の知識・理 解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値を上回っている。昨年度に比べても、伸びが見られ、言語についての知識・理解・技能は、定着してきている。</li> <li>・作文やノートへの記述では、積極的に漢字を使う児童もいれば、あまり漢字を使わない児童もあり、普段から、漢字や効</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の反復練習は引き続き行う。</li> <li>・漢字を文の中で積極的に使う活動や、効果的な表現の例を挙げて、積極的に使う活動を取り入れる。</li> <li>・毎週の小テストを引き続き行い、漢字を書き取る力を定着させていく。</li> </ul>

	果的な表現を使いこなすことが課題である。	
--	----------------------	--

<社会> 改善のポイント H28

問題解決的な学習を推進し、他の事象と関連させながら考察する活動や、考察したことを記述したり話し合ったりする活動を十分に行う。

(1) 学習効果測定の実績

どの学年でも、教科の正答率が目標値を上回っている（5～10ポイント）。「基礎」と「活用」では、昨年度は第4学年、6学年の「活用」で、目標値に達していなかったが、本年はどの学年も目標値を大きく上回っている。観点別に見ても目標値をすべて上回っている。点数があまり高くないのは、先人の働きや県（都）の様子である。

(2) 課題

目標値を上回っているが、全国平均を下回っていたのは、6年生の「工業生産」である。国土や自然などの様子についての知識理解が他の領域に比べると低く、社会的事象への関心・意欲・態度が低い。また、聞き慣れない社会的事象への学習定着が低い。

(3) 改善策

今後は、児童が社会的事象を表面的に理解するのではなく、自分の経験と地域教材と結びつけて理解を深めるとともに、学習したことを自分の生活に生かしていくことができるようにしたい。そのためには、問題解決的な学習を一層推進し、他の事象と関連させながら考察する活動や、考察したことを記述したり話し合ったりする活動を十分に行いたい。

3年

観点	現状	改善に向けての方策
社会的事象への関心・意欲・態度	・自分の住んでいる地域や大田区に関心があり、意欲的に学習に取り組んでいる。	・自分の目で直接見たり、体験したりしたことから、学習問題をつくり、問題解決学習を取り入れていく。
社会的な思考・判断・表現	・大田区内で、地域によって高低差や土地の使われ方に違いがあることに気付くことができる児童が多いが、それを分かりやすく記述することには課題がある。	・資料や地図帳などを使って、地域の成り立ちや特色を考えていく。 ・自分の考えを伝えたり、友達の考え方を聞いたりする交流の場を、意図的に取り入れる。
観察・資料活用の技能	・大田区内の様子を調べてまとめることができるが、資料から考察し、工夫して表	・資料から読み取れることを挙げさせて、観察や資料活用の力を伸ばす。

	現することには課題がある。	・方位を意識しながら、資料等の読み取りをするようにする。
社会的事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大田区のまちの特徴、それぞれの違いについて理解している。</li> <li>・地図記号を覚えるのに時間のかかる児童もいることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを生活の中に生かすことができるようにする。</li> <li>・新聞やニュースでの話題を取り上げる機会を多くもつ。</li> <li>・学習したことをまとめたり、発表したりする活動を取り入れ、定着を図る。</li> </ul>

4年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。地図を読み取ったり、グラフを読み取ったりする力が100%付いている。</li> <li>・社会的事象に対する関心が高く、校外学習を多く取り入れ、意欲的に学習した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習として、清掃工場・消防署の見学、ゲストティーチャーとして、清掃事務所、下水道局、水道局の方を迎え、体験する学習を多く取り入れた。2学期もさらに、体験型の授業を多く取り入れることにより、児童の関心・意欲を引き出すことができると考えられる。</li> </ul>
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。生産や販売に関する思考・判断に関しては、よい結果が出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の時に、校外学習として行った、スーパーマーケットの見学、学校の周りの工場見学などの学習が定着されている。このことから、児童の興味・関心をもたせ、学習することにより、力が付くと考えられる。</li> <li>・調べたことを新聞にまとめ、話し合う学習を取り入れる。</li> </ul>
観察・資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。写真から町の様子を読み取ったり、地図記号や方位の位置をもとに地域の様子を考察したりする力が付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭からでるごみを調べ、教科書のグラフと見比べ、読み取る力をつけるなど、実際の活動と結びつけられると定着が有効と考えられる。</li> </ul>
社会的事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。地図記号や昔の道具の特徴などは、よく理解されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き慣れない社会的事象については、定着が図られるように、新聞やニュースの活用、ゲストティーチャーを招くなど児童が身近に感じられるように学習を進める。</li> </ul>

5年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
社会的事象への関心 ・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、すべての観点で目標値を上回っている。資料を見たり、調べたりすることにとっても意欲的である。</li> <li>・地図の見方や資料の利用について、記号や文言を正確に覚えようとする意欲が足りないことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から課題に関わる社会のでき事や問題を提示し、話題としていく。</li> <li>・授業の中で、資料集や地図帳を活用し、重要な文言を板書しノートに写させる。</li> <li>・インターネットの利用の際には、サイトを指定して、その中で調べさせるようにする。</li> </ul>
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果から、交通安全や消防、上下水道など、生活を支える大まかな仕組みは捉えられている。しかし、文言についてはあやふやな状態になっている。</li> <li>・社会の出来事やニュースに興味・関心が薄く、考えたり話し合ったりできないことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を支える仕組みの資料図を写させ、重要な文言に赤線を引かせる。</li> <li>・朝のスピーチで昨日のニュースを取り上げさせる。</li> <li>・課題に合わせたネットの記事や新聞記事を切り抜き、要点をまとめたり自分の考えを書かせ話し合わせたりする学習を取り入れる。</li> </ul>
観察・資料活用 の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果から、資料や地図から必要なことを読み取ることはでき、目標値を上回っている。</li> <li>・索引を利用することや資料を比べて新たな読み取りをるところまでは至っていないのが課題である。また、重要な言葉を覚えていないことも課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や資料集の隅々にある図やグラフなどを活用して、まとめる活動を取り入れていく。</li> <li>・索引を使って地名を探しや資料を使った問題作りなど、資料に載っている文言や特徴から問題を作らせる。</li> <li>・ノートに重要用語集を作らせる。</li> </ul>
社会的事象への知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果から、目標値を上回っている。</li> <li>・社会の大まかな仕組みはつかんでいるが、地図記号や重要な文言を正確に覚えていないことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の言葉や教科書の文言を板書し、そこから課題を追求させていく。</li> <li>・まとめの段階で、教科書や資料の音読に取り組みせ、重要な文言に赤線を引かせる。</li> </ul>

6年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
社会的事象への関心 ・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、全体的には目標値、区の平均を上回っている。問題では、北方領土や太平洋ベルトなどへの関心が薄く、普段から、社会的な話題への興</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から、新聞やテレビなどのニュースで気になった話題をスピーチしている。社会的事象への関心がもてるよう引き続き行う。また、テーマについても内容を考えて</li> </ul>

	<p>味をもつことが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生の社会の内容が歴史になり、多くの児童が興味をもって学習できている。</li> </ul>	<p>いく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史新聞は、児童が積極的に取り組んでいる。資料集や本、インターネットなどから資料を選択し、テーマに合った新聞作りができるようにする。</li> </ul>
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。日本の工業生産について考えを問われる問題では、考察し、判断することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生の歴史の学習には、興味関心をもって取り組むことができている。さらに、いくつかの資料から社会的な思考を導かれるような活動を取り入れる。</li> </ul>
観察・資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値に達している。一つの資料からの読み取りは9割を超えるものが多いが、複数の資料を関連づけて読み取ることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をもとに思考を深めたり、推測したりする活動を取り入れる。</li> </ul>
社会的事象への知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値に達していない。北方領土や自動車の製作工程など、社会的な知識が定着していない。森林に関する問題は目標値を超えており、内容によって定着にばらつきがあることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあるものとそうでないものでは、定着にばらつきがある。単元の評価により、定着が低い内容の復習に力を入れる。</li> <li>・特に学年のまとめでは、学年全体を通した復習、5年生の学習内容の復習にも取り組む。</li> </ul>

## <算数> 改善のポイント H28

東京ベーシックドリルや大田区ステップアップ学習プリント等を活用し、基礎的な計算の量をこなし、学力の確実な定着につなげる。

### (1) 学習効果測定の実績

算数科の平均正答率は、どの学年も7割を超えている。教科としての平均正答率はどの学年も目標値を上回っている。観点別正答率では、全学年どの観点でも目標値を上回っている。目標値を18ポイントも上回っている学年もある。

### (2) 課題

知識・理解の観点では、昨年度の数值より下回ってしまっている学年が多い。領域別に見ると、特に、「量と測定」「数量関係」領域は目標値を上回っているが数值が高くはないので、課題が見られる。問題情報を見ても、それらの領域の問題の正答率はやはり高くない。計算などの技能は定着が見られるが、量感が伴っていない。

### (3) 改善策

児童の実態として、量を感覚的に把握する力の弱さ、数概念の未熟さがあることが多い。計算練習などでは身に付けることができているので、日常の中で、色々な事象と結び付けながらどのような単位や数字が使われているのか確認して指導していく必要がある。

また、低学年からの基礎・基本の定着を図るために、東京ベーシックドリルや大田区ステッ

プアップ学習プリント等を活用する。基礎的な計算の量をこなすことでも基礎・基本の確実な定着につなげていく。

### 1年

観点	現状	改善に向けての方策
算数への 関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>数字を書くことや、数に触れることを楽しんでいる。日常生活に関連した内容に意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業以外の場面で、数に親しむ機会を多く作る。</li> <li>導入や展開を工夫し、より意欲的に算数に取り組めるようにしていく。</li> </ul>
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を操作する活動を通して、数量をイメージすることができるようになってきたが、個人差は大きい。</li> <li>自分の解き方を操作の仕方や言葉を使って、説明することができる児童がまだ少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の大きさの感覚を身に付けるために、計算ブロックなどを使って、数をイメージする力をつける。</li> <li>「算数ブロック」「10のまとまり」「さくらんぼ」など解決するための手立てを多く持てるようにする。</li> </ul>
数量や図形 についての 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>足し算や引き算の計算は、多くの児童が習熟できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算に時間がかかる児童には、具体物を積極的に活用できるように声かけをする。</li> </ul>
数量や図形 についての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文を理解できず、足し算と引き算の区別がつかない児童もいることが課題である。</li> <li>答えに単位をつけられない児童がいることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題では、場面を具体化し、自分でお話をしながら問題の流れを理解できるようにする。</li> <li>家庭学習も含め、繰り返し復習させ、学力の定着を図る。</li> </ul>

### 2年

観点	現状	改善に向けての方策
算数への 関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に取り組む児童が多い。中には苦手意識をもった児童もいるが、諦めずに粘り強く取り組んでいる様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別に、児童の実態に応じた導入や展開を工夫する。具体物を用いたり、課題を把握させることにより、見通しをもたせて学習させる。</li> <li>意欲を損なわないよう、学習に対する姿勢を大いに認め褒める。</li> </ul>
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートに自分の考えを書けるが、友達への伝え方がノートを見せるだけといった言葉で説明できる児童は少ない。また、考え方を文章問題で応用することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話形を示したり、期間指導で担任が一度聞き自信をもたせる声かけをしたりと補助を行う。</li> <li>引き続き、図や言葉、式を用いて自らの考えを発表する場を積極的に設ける。また、友達の考えを再度説明する機会を設けることにより、不安感を取り除き、少しずつ</li> </ul>

		説明できるようにする。
数量や図形についての技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がり・繰り下がりの計算は、ほとんどの児童が習得している。</li> <li>・ものさしを使って、直線を引くことに個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数問の復習を定期的に行い、習熟を図っていく。そのために家庭とも連携し、家庭学習でも復習に取り組んでもらう。</li> <li>・ものさしを用いて直線を引き、長さを測る活動を取り入れる。</li> </ul>
数量や図形についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がり・繰り下がりの計算はほとんどの児童が理解している。</li> <li>・水の体積（dL、L、mL）や長さ（cm、mm）での単位換算が苦手な児童が比較的多く見られる。</li> <li>・時刻は読み取れるものの、時間を考えることが苦手な児童が比較的多く見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習を繰り返し行い定着させる。</li> <li>・時計や長さなど、日常生活でも用いるものは意図的に扱うことで、定着を図る。また、家庭学習でも復習に取り組んでもらう。</li> </ul>

### 3年

観点	現状	改善に向けての方策
算数への関心・意欲態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に考えたり問題に取り組んだりする児童が多く、積極的に自分の考えを発表できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度の程度を把握し、その集団に適した教材を効果的に用いて、意欲をもって取り組むことができるようにする。</li> </ul>
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的に筋道を立てて考え方を説明できる児童もいるが、自分の考え方を表現することがまだ難しい児童もいる。</li> <li>・文章問題をじっくり読み、問題場面を理解して答えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や図を使って、計算の仕方や答えの求め方を考えたり、友達に伝えたりする場面をつくる。</li> <li>・具体物を活用し、視覚的にイメージをもって考えることのできる場面をつくる。</li> </ul>
数量や図形についての技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則計算は定着できている児童が多い。</li> <li>・時計や長さなどの量感をもつことには少し課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算九九の暗唱や計算を家庭でもくり返し練習させ、さらに確実な物にする。</li> <li>・自分の生活と関連付けたり、活動を通して量感がもてるようにしたりする。</li> </ul>
数量や図形についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な内容の学習が定着できている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習も含め、繰り返し復習できるようにし、学習の定着を図る。</li> </ul>

### 4年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
算数への関心・意欲態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。量と測定では、目標値を上回ってはいるが、身近な長さ・重さの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容を生活の中で生かせるようにする。</li> <li>・計算の習熟は高いが、図形や単位について</li> </ul>

	単位を推測することが苦手であった。	の復習が必要であると考えられる・
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。文章題では、何を問われているかを考え、立式することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題では、何を問われているか、どのように式を立てるかを全体で考え、自力解決の時間を確保する。また、全体での検討では、多様な考えの中から、共通点や相違点を見つけ、問題解決のために必要なことを導き出す活動を定着させる。</li> </ul>
数量や図形 の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。計算に関しては、よく習熟されている。</li> <li>・垂直と平行、同位角・錯角・対頂角に関しては、十分に定着ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算に関しては、割り算の筆算の更なる習熟のために反復練習が必要である。</li> <li>・1学期に習熟できなかった図形に関する学習については、復習が必要である。</li> </ul>
数量や図形 についての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を大きく上回っている。数と計算、量と測定に関してよく習熟されている。</li> <li>・分数、長さ、重さに関しては、十分に定着ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある長さや重さと既習の事項を結びつけられるような学習が必要である。</li> <li>・分数に関しては、分数の意味を確認する学習が必要である。</li> </ul>

## 5年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
算数への 関心・意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値を上回っている。</li> <li>・基礎的な計算への関心・意欲は高い児童もいるが、基礎的な理解が不十分で自信をもてていない児童もいることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心が高まるよう、教材等を工夫する。</li> <li>・苦手な児童には、個別指導を丁寧に行い、前向きに学習に取り組めるよう配慮する。</li> </ul>
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値も区の平均も上回っている。角の大きさの見当をつける問題の正答率が伸びず、見当をつけることに課題が見られる。論理的に筋道を立てて考え方を説明したり、図を使って表現したりできる児童もいるが、多くないことが課題である</li> <li>・図や言葉の式、数直線などの様々な方法を使って文章題を解くことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図や言葉の式を使って答えの求め方や計算の仕方を考え、数学的な考え方を育てていく。</li> <li>・友達同士で考えを発表し合う時間を作り、指導を重ねる。</li> </ul>
数量や図形 の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値を上回っているが、数値が高くないので課題が見られる。</li> <li>・合同な図形を作図することができる児童は多いが、個人差が見られることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意な児童には、発展問題に挑戦させたり、問題数を増やしたりする。</li> <li>・苦手な児童には、繰り返し問題に取り組みせ、習熟を図る。</li> </ul>
数量や図形 についての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値を超えているが、数値の伸びが高くない。</li> <li>・折れ線グラフから変わり方の読み取りや分数の大小関係に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を振り返らせながら、補習や家庭学習においても定着を図る。</li> </ul>

## 6年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
算数への 関心・意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値に達している。苦手としている問題は百分率の問題である。他の項目ではポイントが高い。</li> <li>・割合・百分率を実際の生活と結びつけて考えることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習後の振り返りから、習熟が目標値に達していない単元については、繰り返し復習を行う。特に、百分率・割合・比例の問題は児童がつまづきやすい問題である。数直線や簡単な整数への置き換えなど、自分なりの考えをもてるよう根気強く取り組む。</li> </ul>
数学的な 考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値に達しているが数値が高くはない。百分率の式を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手とする問題は、文章問題である。問題に表されている条件と何を問われている</li> </ul>

	理解する問題・正方形の紙を3回折ると正八角形ができるかを問う問題以外は正答率が高い。小数の計算の思考を問う問題では、正答率が9割を超えている。	かを整理して考えること、また、多くの情報から必要な情報だけを取り出して考えることに繰り返し取り組ませる。その場合、数直線・表・図などのツールを自ら必要に応じて使えるよう、全体でも丁寧に取り組ませる。
数量や図形の技能	・学習効果測定の結果は、目標値と区の平均に達している。計算の基本はよく理解しているが、百分率の計算になるとミスが多いことが課題である。普段の学習でも、立式はできているが、正答には達していなかったり、式の意味を説明できなかったりする児童が見られることが課題である。	・得意な児童には、発展問題に挑戦させたり、問題数を増やしたりする。 ・苦手な児童には、繰り返し問題に取り組ませ、習熟を図る。
数量や図形についての知識・理解	・学習効果測定の結果は、目標値には達しているが、数値の伸びがないところに課題がある。数と計算についての理解はできているが、分数を小数に直せなかったり、平行四辺形の求め方を理解できていなかったりすることが課題である。	・学習後の振り返りから、知識・理解ができていないものについては、復習を行う。また、既習の事項も繰り返し復習を行う。

## <理科> 改善のポイント H28

児童が興味を持てる課題を設定し、実験、観察を通して自然事象について考える活動を大事にする。また、理科用語の確実な定着を図る。

### (1) 学習効果測定の実績

どの学年も正答率が目標率を上回っている。学年にもよるが達成率は7前後になっている。どの学年も多くの項目が目標値を上回っているが、低めな領域を見ると、思考・技能・知識理解の3つにどれも同じくらいに散らばっている。

### (2) 課題

下回っているのは、「日なたと日かげ」(4年)、「星の動き」(5年)、「閉じこめられた空気」(5年)、「流れる水の働き」(6年)などである。目に見えない物の働きや物理としての考え方など、小学生にはなじみのない内容である。

### (3) 改善策

学習課題を明確にして、実験、観察で「なぜそのようになるのか」を児童なりに想像したり考えたりする時間を十分に取り、絵や図に表現する活動を取り入れる。

児童の説明に補足的に理科用語を当てはめ、理科用語の確実な定着を図る。

3年

観点	現状	改善に向けての方策
自然事象への関心・意欲 態度	・児童が植物の観察や昆虫の飼育などに興味・関心をもって取り組んでいる。	・児童が楽しめるような観察や実験を取り入れ、体験活動を増やす。 ・映像教材やデジタル教材を効果的に取り入れる。
科学的思考・表現	・多くの児童が生活経験から知識に結びつけることができている。予想をたてることもできるようになってきている。 ・結果から分かったことを考えることが課題である。	・児童の疑問点から課題を提示し、調べたいという意欲をもたせる。 ・「課題」→「予想」→「観察・実験」→「考察」する時間を確保し、問題解決学習を進めていく。
観察・実験の技能	・観察では、前回との比較や、観察するポイントを明確にして記録することができている。	・常に比較して観察するという視点を明確にし、自分の言葉でまとめることができるようにする。 ・実験や観察に使う器具の正しい使い方を一つ一つ確認し、くり返し使用し定着させる。
自然事象についての知識・理解	・観察や実験を通して知識が身に付いている。詳しく知っている児童から知識を広げることができている。	・観察したことや実験の結果から分かることを考えることで、知識を定着させる。 ・くり返し復習をし、定着を確実にする。

4年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
自然事象への関心・意欲 ・態度	・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。理科への関心・意欲・態度は高い。 ・特に、実験や観察などの学習への関心は高く、定着も高い。	・身近な自然事象への興味をさらにもたせるために、身近な自然事象の実験や観察を多く取り入れ、実際に体験する活動を多くする。
科学的な思考・表現	・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。 ・実験や観察の結果から、科学的に考えることは難しく、実験結果から磁石の極を判断したり、空気と水の体積の特性を導き出したりすることは課題であった。	・実験や観察から科学的思考を導き出せるように、考察を行い、全体で科学的な理解を深められるような授業を展開する。 ・学習後の復習を行う。
観察・実験の技能	・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。観察や実験は、関心を持って学習する	・児童が興味をもって取り組めるような実験・観察を行う。

	ることができる。	・実験や観察の視点を提示し、実験や観察から何を学習するかを考えさせる。
自然事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値を上回っている。</li> <li>・理科用語の定着は課題である。また、日なたと日陰・磁石・空気と水・植物の実・昆虫の体などの知識理解は定着が低かった。</li> </ul>	・教科書を反復して読むことは、学習を定着させる上で有効であると考えられる。

5年

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
自然事象への関心・意欲態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値をわずかに下回る結果になっている。</li> <li>・植物の生長や月の動き、水の姿や電気の働きなどを比べると、実験に比べ観察に対する意欲が低いことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の学習を引き続き行い、児童が興味・関心をもてる授業を展開する。</li> <li>・植物の生長の観察は、定期的に十分に時間を与え観察の視点を明確にして取り組ませる。</li> <li>・月の観察では、月の予想経路を示すなど、児童だけでも観察できる観察カードを工夫する。</li> </ul>
科学的な思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値をわずかに上回っている。</li> <li>・植物の生長や気温の変化など具体的に観察できる事象はよいが、空気の体積変化や電気など見ることのできないことは考えにくいようである。見えない事象に対する思考が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察を通して、事実だけではなく、そこから考えられること、検討できることなどを大切にする。また、既習の学習や日常生活と結びつけて考える学習に取り組ませる。</li> <li>・見えない事象について、児童が想像し図式化するような見える化を図る時間を取る。</li> </ul>
観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値を上回っている。</li> <li>・実験や測定など具体的に組み組んだことは身に付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味や関心をもって主体的に取り組める教材を取り入れていく。</li> <li>・道具を手にとって活動できる時間を確保していく。</li> </ul>
自然事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果では、目標値をわずかに下回る結果になっている。</li> <li>・実験で確かめられたことは、しっかり身に付いている。</li> <li>・月や星の観察や空気の体積変化など観察や見えない内容は定着の低いことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のまとめで、条件や結果、考察など重要な理科用語をおさえながらまとめ板書する。</li> <li>・児童の生活から離れている事象などは、ビデオ教材やインターネットを活用していく。</li> </ul>

観点	現状、結果分析	改善に向けての方策
自然事象への関心・意欲態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値、区の平均を上回っている。自然事象への関心が高い。</li> <li>・特に実験に対しての意欲があり、課題、予想、実験、考察の流れがよくつかめており、積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の学習を引き続き行い、児童の関心を生かせる授業を展開する。</li> <li>・実感を大切にする授業を展開し、児童の「楽しい」「なるほど」「もっと知りたい」という意欲がもてる体験を多く取り入れる。</li> </ul>
科学的な思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値、区の平均を上回っている。しかし、流れる水のはたらきの思考では、目標値に達していない。</li> <li>・普段の学習では、実験の結果から分かることを考察することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の興味関心を大切にし、実験や観察から分かることを検討することを大切にする。</li> <li>・実験や観察から分かることでは、結果の違いや結果から推測することを丁寧に扱う。</li> <li>・実験の結果だけでなく、既習の事項や、普段の生活と結びつけて考えることに取り組む。</li> </ul>
観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値、区の平均を上回っている。受粉の実験の方法については正答率が9割であり、取り組んだことが身に付いている。しかし、対物レンズの使い方の問題では、目標値に0.2ポイント届かず課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に、実験や観察に取り組んでいるからこそ、技能が身に付いていると考えられる。引き続き、興味のある実験や観察を通して、技能が身に付くようにする。</li> <li>・また、実際に体験できない単元については、ビデオ教材などを利用する。</li> </ul>
自然事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果は、目標値、区の平均を上回っている。人や魚のたんじょうについての知識を問う問題の正答率は、目標値を超えており、よく理解できている。電磁石の問題は10ポイント以上目標値に達しておらず課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りにより、理解が達していないものは復習に取り組む。</li> <li>・理科用語の定着を図る。</li> </ul>

### <生活科> 改善のポイント H28

具体的な活動を通して、興味・関心を引き出し、自分自身や自分の周りについて気付いたことを表現する機会を多く設定する。

#### (1) 現状

植物や生き物を育てることに喜びを感じ意欲をもって取り組むことのできる児童は多いが、

観察に対する関心や気付き、詳しく表現することに個人差が見られる。

## (2) 課題

観察や町探検などで、気付いたことを詳しく表現することに課題が見られる。

## (3) 改善策

色・形・大きさ・手触り・においなど、観察の視点を示す。自らが気付いたことを、たとえば表したり、数値や形などで具体的に表したりした表現方法を示し、全体で共有する機会を設ける。

### 1年

	現状	改善に向けての方策
生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あさがおの生長を楽しみに毎朝の水やりを心を込めて行っている。</li> <li>・2年生との交流では、話をよく聞き、関わり方を学びながら楽しむことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つるを使ったリースを作る、新1年生に種をプレゼントするなど活動を工夫し、次に向けて意欲を持たせる。</li> </ul>
活動や体験についての思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あさがおの生長過程を、五感を使って詳しく表現することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きさ」「形」「色」「手触り」など具体的な観察の視点を与える。</li> </ul>
身近な環境や自分についての気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人との関わりに気付き、大切にすることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年との交流の中で楽しかった経験を振り返る機会を設けて、新1年生を迎えるときに生かせるようにする。</li> </ul>

### 2年

	現状	改善に向けての方策
生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節探しや植物の観察など、意欲的に取り組む児童が多い。反面、関心を示さない児童も見られる。</li> <li>・学校探検などの1年生との学習では、準備から当日まで意欲的に取り組む児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの野菜を全員で栽培する活動を通して責任感と成長に対する喜びの共感できる機会を設ける。</li> <li>・それぞれのめあてを明確にし、それぞれが達成感を味わえる活動を取り入れていく。</li> </ul>
活動や体験についての思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマトの気付いたことを観察カードに表す際に、色・形・大きさ・手触り・においなど、観点を示したことにより、それぞれの観点について注目すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが気付いたことを、たとえば表したり、数値や形などで具体的に表したりした表現方法を示し、全体で共有することにより、表現することが苦手な児童の手だてと</li> </ul>

	ができた。しかし、詳しく表現できない児童も見られた。	する。また、発表する機会を設けることで、より目的意識をもたせて活動させる。
身近な環境や自分についての気づき	・生き物を育てることによって、世話をすることの大切さに気付いている。	・学校にいる動物・植物について、図書やインターネットを活用して調べることを通し、育つ様子や育て方などを知る。

### <音楽>改善のポイント H28

教科の特性を生かし、多様な課題や学習形態を取り入れ、自主的に表現方法を工夫する力を育てる。

#### (1) 現状

多くの児童が高い関心・意欲をもって取り組み、苦手なことにも進んで取り組む姿勢がみられる。歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくりをバランスよく取り入れ、ねらいや課題を明確にし、児童は達成感や感動を味わいながら音楽活動に取り組んでいる。

#### (2) 課題

音楽を表現するための基礎的な技術に個人差がある。また、曲想の良さや音楽のしぐみに気づき、表現方法を工夫することが課題である。

#### (3) 改善策

1人1人のつまずきや課題に対して、具体的な声かけや解決策を提示し、個別指導を丁寧に行う。また、意見交換の場や少人数活動を取り入れ、1人1人が主体的に活動できる場を設定する。様々な音楽や表現に触れさせ、よりよい表現方法を工夫する楽しさを味わえるようにする。

1年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく楽しく大きな声量で歌うことができている。</li> <li>・音をよく聞いて優しくきれいな声で歌えるようになることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの声を聞き合う活動を増やし、音色の美しさに気づかせ、音程に気をつけて歌えるようにする。</li> <li>・様々な歌や楽曲にふれ、音楽の楽しさを感じられるようにする。</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・打楽器への興味が強く、熱心に練習している。</li> <li>・身体で拍を感じながら、リズム打ちに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の正しい奏法も身に付けさせ、リズム遊びなども多く取り入れていく。</li> </ul>

音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤ハーモニカの基本的な演奏法は、段階的に少しずつ身に付けている。</li> <li>・リズム打ちにも慣れ、簡単な打楽器に親しめるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤ハーモニカや打楽器の基本的な演奏法をしっかりと身に付け、合奏ができるようにする。</li> <li>・階名唱は継続的に行う。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの演奏を聴き合い、良かったところを伝え合うことができている。</li> <li>・音楽に合わせて身体でリズムをとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴いて感じたことを身体で表現したり、絵に表したりなど、様々な経験を積み重ねていく。</li> </ul>

## 2年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動には多くの児童が意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・音の高さの違いに気付き、声の出し方や発音を工夫することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・達成感や感動を味わわせるように、個別支援を細やかに行う。</li> <li>・階名唱や模唱を取り入れたり、せんりつあそびで音の高さの違いに気付かせる。</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に大きな声で歌う児童が多く、新しい曲に対する高い関心をもっている。</li> <li>・曲想に合った柔らかい発声が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な曲想の歌を提示し、曲に合わせて自然と柔らかい力の抜いた発声ができるように指導する。</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍵盤ハーモニカでは難しい課題にも諦めずに取り組む姿勢がみられ、特に器楽合奏には意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>・技術の個人差が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導を丁寧に行い、児童に合わせたスモールステップで取り組ませる。また、児童同士での教え合いを取り入れる。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音に合わせた身体表現や手遊びには、リズムによって意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・周りの演奏や歌声に合わせることを課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人ずつの演奏リレーや、グループごとに聞き合う活動を取り入れ、周りの演奏や歌声のよさに気付くことができるようにする。</li> </ul>

## 3年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動には多くの児童が意欲的に取り組んでいる。歌唱・器楽ともに向上心が高く、自主的に練習することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱、器楽、鑑賞の活動をバランスよく取り入れ、友達と合わせる喜びや達成感を味わわせる。</li> </ul>

音楽表現の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想に合った歌声を意識し、高い音も響きのある声で歌えている。</li> <li>・歌詞を大切にしながら歌うことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい姿勢を定着できるように、常時声をかける。また、歌詞を朗読してから歌うなど、歌詞の大切さに気付かせる。</li> </ul>
音楽表現の 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーの導入では、正しい指使いは概ね定着しているが、適当な息の強さやタンギングが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テストでは1人ずつ演奏させ、一人一人に合った課題を指導する。また、友達同士の教え合いの活動を取り入れ、よいところを真似させる。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想や旋律のおもしろさに気づき、身体で表現することに意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・音の重なりを感じて演奏することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輪唱や簡単なアンサンブルを導入として、音が重なったひびきのよさを感じさせるようにする。</li> </ul>

#### 4年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動には多くの児童が意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・即興的なリズムや旋律づくりで、音楽の仕組みを生かして表現することが課題である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱、器楽、鑑賞、音楽作りの活動をバランスよく取り入れ、音楽の特徴や仕組みに気付けるようにする。</li> </ul>
音楽表現の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想に合った歌声で、高い声ものびのびと発声できている。</li> <li>・二部合唱において、声の重なりを感じて歌うことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輪唱や簡単な二部合唱の教材に取り組み、部分的に取り出すなどして、ハーモニーを感じられる活動を取り入れる。</li> </ul>
音楽表現の 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーの正確な指使いやタンギングも定着しており、とくに器楽合奏への意欲が高い。読譜についての個人差が課題である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な楽器に触れさせ、器楽の楽しさを味わわせながら、個人支援を丁寧に行う。また、階名読みやリズム教材を取り入れ、譜読みに触れる機会を増やす。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴や、曲想のおもしろさに気付くことはできるが、友達によさが伝わるように表現することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽のしくみを表すワードを提示し、歌唱・器楽活動でも言語活動を充実させる。</li> </ul>

#### 5年

	現状	改善に向けての方策

音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動には多くの児童が熱心に取り組んでいる。歌唱・器楽ともに向上心が高く、自主的に練習することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱、器楽、鑑賞、音楽作りの活動をバランスよく取り入れ、友達と合わせる喜びや達成感、感動を味わえるようにする。</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声でのびのびと歌う児童が多い。頭声発声を意識させ、歌詞のよさを意識しながら歌えるようにすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の響きの違いを実感できるよう、発声練習を定期的に取り入れる。歌詞を朗読したり、感じたことを伝え合ったりする活動を取り入れる。</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽の技術も定着し、苦手なところも自主的に練習できている。</li> <li>・強弱やフレーズを意識した音楽表現ができるようにすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の特徴や音量のバランス、曲のまとまりを考えて演奏させる。視覚的にも意識できるように図形楽譜などを取り入れる。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に対する感受性が豊かで、曲のよさや特徴をつかむことができている。</li> <li>・感じたことを言葉にして伝えることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽のしくみや、音楽を作り出すワードを指導し、参考にさせる。友達の演奏に対しても良さやアドバイスを伝え合う活動を取り入れる。</li> </ul>

## 6年

	現状	改善に向けての方策
音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動には多くの児童が熱心に取り組んでいる。歌唱・器楽ともに向上心が高く、自主的に練習することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱、器楽、鑑賞、音楽作りの活動をバランスよく取り入れ、友達と合わせる喜びや達成感、感動を味わえるようにする。</li> </ul>
音楽表現の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞のよさや旋律の美しさを感じながら、のびのびとした発声で歌うことができる。</li> <li>・歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい呼吸法や発声法を繰り返し指導し、表現方法の幅を広げられるようにする。歌詞を朗読したり、意見交換を取り入れながら、思いや意図をもって歌えるようにする。</li> </ul>
音楽表現の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽の技術が定着し、多くの児童は苦手なところも自主的に練習できている。</li> <li>・強弱や旋律の役割を意識した音楽表現ができるようにすることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の特徴や音量のバランス、曲のまとまりを考えて演奏させる。強弱を生かして演奏した面白さや良さを感じられるようにする。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童は曲の音程やリズムを、正しく聴き取ることができている。</li> <li>・曲のしくみや音楽をつくり出す要素に気付いて鑑賞することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽のしくみや、音楽を作り出すワードを指導し、参考にさせる。様々な演奏形態の楽曲や、世界の音楽に触れさせ、関心をもって鑑賞できるように工夫する。</li> </ul>

<図工>改善のポイント H28

それぞれのめあてを明確にし、それぞれが達成感を味わえる活動を取り入れていく。そのために、題材や材料を工夫し、それぞれが意欲をもって取り組むことができるようにする。

(1) 現状

どの学年の児童も造形への関心が高く、意欲的に取り組む児童が多い。しかし、発想が深まらず、課題にじっくり取り組めない児童も見られる。

(2) 課題

材料の特徴を生かしたり、自分なりの構想を練ったりすることに苦手意識をもっている児童に対しての指導援助が課題である。

(3) 改善策

できあがりの見本を見せたり、表現方法を提示したりして自由な発想を促す。また、発想が広がるような材料を準備する。

1年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	・クレヨンを使った絵を描く経験を多く積み重ねてきたので、自分の描きたいものを表現することや丁寧に色をぬることを心がけるようになっている。	・引き続き、楽しい図工指導になるように造形遊びも含めて様々な経験をさせる。
発想や構想の能力	・自分なりの思いをもって作品作りに取り組んでいる。 ・見本を忠実に再現しようとしたり、やることの見通しがもてなかったりすると自由に発想することが難しく、まだまだ作品が似通ってしまう傾向があることが課題である。	・出来上りの見本は、毎回見せるが自由な発想を大切にするため、長く掲示しないようにする。 ・対話を通して、それぞれの「作りたいもの、描きたいもの」ができるようにアドバイスする。
創造的な技能	・絵の具の筆使いやはさみ等の道具の操作は、ぎこちないながらも楽しく取り組んでいる。 ・形をよく見て細かい部分まで工夫して描くことが課題である。	・作業は比較的是やいが、「線通りにまっすぐ切る」「はみ出さないように塗る」など、丁寧に作品作りができるように道具の使い方などのポイントを具体的に指導する。
鑑賞の能力	・友達の作品のよさを自然に認め合えるよさがあり、多くの児童が、手法を柔軟に取り入れようとする意欲をもっている。	・どの作品もよさを見付けて、児童の自信につなげるとともに鑑賞の視点が育つようにする。

## 2年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら想像したことを絵に表すことやものの変化を感じ取り物づくりを楽しむことができる。</li> <li>・自分のイメージ通りに作品づくりが進まない途中であきらめてしまう児童も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの表現方法に自信をもたせるよう共感的指導を心がける。</li> </ul>
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想豊かに作品づくりに取り組んだり、物語を考えながら絵に表したりすることができる。</li> <li>・経験値が少なく発想が思い浮かばない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な発想を促すため、教師見本や表現方法を提示したり発想が広がるような材料を用意したりする。</li> </ul>
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な材料の使い方を工夫できる児童がいる。</li> <li>・それぞれの材料のよさを生かし切れない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の特性を生かした使い方を指導するとともに、繰り返し使い体得させる。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品について、そのよさを認め合う姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの作品をじっくり見合いよさを見つけられるよう時間を設定する。</li> </ul>

## 3年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材や材料に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多く見られる。</li> <li>・しかし、指示の理解が難しかったり、自分の思いに技能が追いつかなかったりする児童も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な材料や用具の体験を通して、基本的な技能を身に付けさせる。</li> </ul>
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマや材料、使用する道具などから思いついたことを表そうと意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・しかし、いろいろ試しながらじっくり材料に親しんだり、表し方を考えたりする力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な材料や表現方法を経験しながら、次第に自分のイメージをもってつくりたいものや描きたいものを考える力を身に付けさせたい。</li> </ul>
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が表したいことに合わせて画材や道具を選び表現することができる。</li> <li>・のこぎりや金づちなど新しい技能を安全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いに合わせて材料や用具を扱う楽しさを味わうとともに経験を深める指導を工夫する。</li> </ul>

	に気を付けて主体的に習得させたい。	
鑑賞の能力	・友達の作品や他学年の作品に興味をもち、色や形のよさや面白さなどを感じ取ることができる。	・自己の作品を発表したり、友達や身近な美術作品を鑑賞したりする場を適時設ける。

#### 4年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	・題材や材料に興味をもち、意欲的に取り組むことができる。 ・発想が深まらず、課題にじっくり取り組めない児童も見られる。	・新しい技能に親しんだり、作品に自分らしさを取り入れたりしながら達成感をもたせる指導の工夫をする。
発想や構想の能力	・材料を組み合わせてできる形から、自分らしい表現を思いついて制作に取り組む児童が多い。 ・安易に終着を決めてしまいがちの児童もいる。	・じっくり取り組めるよう言葉掛けをしたり、様々な道具の準備をしたりして環境的な支援をする。
創造的な技能	・題材の特徴を生かして、用具や材料の使い方を工夫して表現できる。 ・自分が表現したい思いに合わせた用具や材料を選択することがまだ難しい。	・発想や構想に合わせた表現方法を共に探りながら、児童自らの力で選択できるようにする。
鑑賞の能力	・友人の作品や制作活動に興味をもち、作品のよさや工夫した点などを感じたり、互いに認め合ったりしている。	・自分の表現と友人の表現の違いを話し合ったり、自分の活動を振り返ったりする機会をより多く設定する。

#### 5年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	・新しい表現方法や材料に対して興味をもち、意欲的に取り組む児童が多く見られる。 ・自分らしい思いをもって表現したいという創作意欲をもって取り組むことが少ない。	・導入時にその時間の目標を明確にし、活動を支援する。
発想や構想の能力	・新しい表現方法や材料に対して、形や色、材料の特徴、用途などを考えることができる。	・自分らしいテーマや表現方法を追求しながら活動できるよう支援していく。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの経験を総合的に生かして構想を練り上げることができない。</li> </ul>	
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じた印象や思いを実現できるよう、材料や用具の特徴を生かして表し方を工夫できる。</li> <li>・これまでに培った技能を安全や正確さに気を付けながら取り組めない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材や道具の経験を振り返ったり、構想に合わせた表現方法を選択したりできるように環境作りを工夫する。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色や形、表現方法の工夫など、造形的な視点から互いに鑑賞し合い、友人同士感想を述べ合っている姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の多様な見方や感じ方で、作品のよさや美しさを共有し合える鑑賞の場を設定する。</li> </ul>

## 6年

	現状	改善に向けての方策
造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしいテーマや表現方法で表すことを楽しみ、意欲的に活動する児童が多く見られる。</li> <li>・初めは意欲的だが根気よく最後まで取り組めない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入時に参考作品や事例を提示したり、今までの経験を生かせる題材を提示したりして児童の意欲・関心を高める。</li> </ul>
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしい表現や美しさを追求して取り組むことができる。</li> <li>・下描きや試作してから作業に取りかかるなど、前もって構想を練る児童も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの経験を総合的に生かしながら制作するような題材を工夫して提示する。</li> </ul>
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が表したいことに合わせて、今までに身に付けてきた技能を生かして取り組むことができる。</li> <li>・危険を伴う道具類に苦手意識をもつ児童も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の造形的な経験が生かせるような指導を工夫する。</li> <li>・安全や正確さに気を付けながら活動できるようにする。</li> </ul>
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人の作品や身近な美術作品に興味をもって鑑賞活動ができる。</li> <li>・自他の作品のよさを認め合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしい表現であることのよさに気付く環境作りをした鑑賞の機会を設ける。</li> </ul>

### <家庭科>改善のポイント H28

それぞれのめあてを明確にし、達成感を味わえる活動を取り入れ、友達と協力しながら学習をすることを通して、家庭生活等で生かせるようにする。

### (1) 現状

身近な題材に対する興味関心は高いが、技能面で個人差がある。グループで計画を立てたり、教え合ったりする活動を取り入れていく必要がある。

### (2) 課題

調理や裁縫などの身近な題材に対して意欲的に取り組むものの、家庭生活での経験差が目立つ。また、見通しをもって学習計画を立てたり、作品に対して創意工夫をしたりすることにも個人差が見られる。

### (3) 改善策

体験や実践を伴う活動を多く取り入れ、学習したことを家庭や身近な生活で活用できるようにしていく。また、実物投影機などを取り入れ手元の動きを全体に周知させることで、手縫いやミシンの技能の定着を図っていく。

## 5年

	現状	改善に向けての方策
家庭生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>調理や裁縫など、児童の身近な題材に対し、非常に意欲をもって取り組んでいる。</li><li>学習したことを家庭で実践できている児童が少ないことが課題である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>児童にとって身近な題材を取り上げ、生活の場に生かせるように支援する。</li><li>学習したことを家庭で実践しようとする態度を育てる。</li></ul>
生活を創意工夫する能力	<ul style="list-style-type: none"><li>グループで計画を立てたり、話し合ったりする時間では、工夫しようとしていることができている。</li><li>実習の中で、創意工夫ができている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>家族の一員としてできることを見つけ、自分なりに課題をもったり工夫したりして活動に取り組めるようにする。</li></ul>
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"><li>調理や裁縫など、確実に技能を身に付けられるような題材ではあったが、個人差が大きいことが課題である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ペア学習やグループ学習を行い、教え合いながら技能を高められるようにする。</li></ul>
家庭生活についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"><li>苦手を把握し、見通しをもって学習計画をたてることに個人差があることが課題である。</li><li>日常生活で使用するものの名前や使い方については理解できている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>制作や実習を通して、家庭生活上で生かせるようくり返し確認し、活用する場面を多く取り入れることで定着をはかる。</li></ul>

## 6年

	現状	改善に向けての方策
--	----	-----------

家庭生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な生活への興味関心は高い。特に実習や製作への関心は高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味関心が高い題材を取り上げ、なるべく児童に合った教材に取り組みさせる。</li> <li>体験を多く取り入れ、実感の伴った学習を通して、生活に生かせるようにする。</li> </ul>
生活を創意工夫する能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中に課題を発見することが難しいことが課題である。</li> <li>実習や製作では、創意工夫することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中から課題を発見し、解決するために創意工夫することに取り組みさせる。</li> </ul>
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作では、個人差が大きく、全体的に技能の定着が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童にとって、分かりやすい授業を展開し、繰り返して取り組む。</li> <li>グループ学習を通して、技能が身に付くようにする。</li> </ul>
家庭生活についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科用語の定着が課題である。</li> <li>ミシンや手縫いの知識・理解も個人差があることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の振り返りやワークシートなどを通して、知識・理解の定着を図る。</li> <li>実際に活用できる場面を多く取り入れる。</li> </ul>

### <体育>改善のポイント H28

引き続き、基礎体力の向上に努めながら、授業の中で作戦を考える機会を多く設け工夫する力を身につける。

- (1) 現状 体育の授業に対する関心はどの学年も高い。
- (2) 課題 スポーツテストにも表れているが、投力、握力を向上させることが、課題である。また、運動を工夫して行える児童が少ない。課題をもって取り組んでいない児童がいる。安全に取り組もうとする姿が見られない。
- (3) 改善策 授業内に固定遊具を使うことを促す。  
ボール運動の際、投げ方を指導し、小さいボールで投げる練習を多く取り入れる。  
作戦を考える時間を設けたり、工夫できる教材を使用したりして、考える場を多く増やす。  
それぞれの課題を明確にし、活動に取り組みさせる。  
学習の前に安全面を確認し、ルールを徹底させる。

1年

現状	改善に向けての方策
----	-----------

運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼ごっこや表現遊びなどを通し、楽しく運動している。</li> <li>・友達と関わり、協力することの楽しさや、きまりを守ることの重要性に気付くことができている。</li> <li>・水遊びには、意欲的に取り組んでいるが、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭の遊具、ボールなど多くの教材を使用して体を動かし、男女一緒に楽しく運動できるようにする。</li> <li>・ゲーム型の運動をして、友達と協力したり工夫したりして、友達との関わりの楽しさを多くの児童に気付かせる。</li> <li>・家庭とも連携し、水に慣れる機会を多く設けていく。</li> </ul>
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことが好きな児童は多くいるが、どのようにすればできるようになるのかを考えられる児童が少なく、上手にできていても考えを伝えられない児童が多いことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でお互いに話し合う時間を確保する。</li> <li>・ICT 機器などを用いて、客観的に自分の姿を見せたり、上手な人の手本を見せたりする。</li> </ul>
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投げる力と握力が低い児童が多いことが課題である。</li> <li>・上体起こしに苦戦する児童が多くいる。</li> <li>・単調な動きだと差はあまり見られないが、複雑な動きになる程、個人差が大きいことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール遊び（投げる）や、遊具を用いた活動を積極的に取り入れ、向上を図る。</li> <li>・授業の始めに、体づくり運動を積極的に捉え、基礎体力向上をめざす。</li> </ul>

## 2年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら取り組んでいる様子が見られる。また、体力調査のアンケートでは、体育が好きと答えた児童が大半である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しむ姿勢と共に、一生懸命に取り組んでいる姿を褒めて全体に広げることで、より意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・適宜、補助や励ましの声かけをすることで、苦手な運動にも取り組む姿勢を養っていく</li> </ul>
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コツや体の使い方など、課題をもって取り組んでいない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの課題を明確にし、活動に取り組ませる。また、児童同士で課題を解決した方法を伝え合う機会も設ける。</li> <li>・ゲームでは、ルール工夫や作戦の話合いなど、自分たちで決めて進めていく力を養う活動を取り入れる。</li> </ul>

運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動経験や日常生活での運動量の差で、上達や技の習得の速さに差が見られる。特に、</li> <li>・全体的に投げる力や握力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の時間を長く取り、十分な運動時間を確保する。スモールステップで取り組ませることで達成感ももたせる。</li> <li>・休み時間には外でボールや固定遊具を使って遊ぶよう声をかける。</li> <li>・体づくりとして、腕を支持する力を高める活動を毎回取り入れる。</li> </ul>
-------	--	--

### 3年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育への関心は高く、意欲的に体を動かすことができる。</li> <li>・自分のやりたいことが優先され、素早く活動することには課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の運動量を十分に確保できる指導内容を工夫する。</li> <li>・ルールを徹底して意識させる。</li> </ul>
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を工夫して行うことには課題がある。</li> <li>・リレーの練習では、各チームで練習の仕方を考えて工夫して行っている場面も見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで運動する場や練習法を選んだり作戦を立てたりする時間も確保する。</li> <li>・練習の仕方や、必要な知識を事前に確認する。</li> </ul>
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技能を身につけている児童が多いが、運動の内容によって個人差は大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく活動できる場を用意し、意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・自分の目標を明確にさせる。</li> </ul>
健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りを見て安全に取り組もうという姿があまり見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の前に必ず安全面の確認をする。</li> <li>・健康についての学習は、身近な生活と関連づけて進めていく。</li> </ul>

### 4年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動への関心は高く、楽しんで運動することができる。</li> <li>・運動会の練習では、進んで取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業だけでなく、休み時間も運動に楽しく親しめるように、クラスでの運動の時間や学校全体での縄跳びや持久走の取り組みを生かす。</li> </ul>
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動することは楽しく、進んで取り組むが、考えて技能を高めよう意識している児童は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、運動をふり返り、めあてをもって取り組ませることで、思考・判断力が付くと考えられる。</li> </ul>

運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間やスポーツクラブに所属している児童は、運動も得意である。</li> <li>・いろいろな運動に進んで取り組もうとする児童は少なく、運動が偏っている。特に、鉄棒・縄跳び・水泳・ボール運動・器械運動は個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな運動に取り組めるように、意識付けさせる。鉄棒や縄跳びは、日常の取り組みができるよう、学習カードの活用などが有効と考えられる。</li> <li>・また、ボール投げ・握力など、体力テストで結果が出なかった運動を意識し、授業の中に取り入れていく。</li> </ul>
健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生の保健の単元である「育ちゆく体とわたし」の学習は2学期以降であるが、体の成長に関して、変化が見られるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの成長記録を見返すことと、一般的な成長曲線を知ることにより、これからの自分の成長の見通しを立てるようになる。</li> </ul>

## 5年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の学習に意欲的に活動している。休み時間は運動に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・日常生活で取り組んでいる運動の種類が少なく限られていることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動にステップやゲーム性を取り入れ、取り組む意欲を高める。</li> <li>・休み時間でも取り組めるように運動の場や学習カードを工夫する。</li> </ul>
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を楽しもうと活動に取り組んでいるが、より技能を高めたい、自ら考えて細かいところを意識して取り組もうとする児童は少ないことが課題である。</li> <li>・運動に対する安全確保の意識が低いことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを活用し、一人一人がめあてをもって学習に臨み、振り返りができるようにする。</li> <li>・教え合いの場を設ける。</li> <li>・ゲーム運動では、チームで作戦を考えたり、練習を考えたりする場を設定する。</li> <li>・集合、移動などに集中させる。</li> </ul>
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から運動に取り組んでいる児童は、技能も高く意欲的に取り組む。</li> <li>・なかなか運動をしない児童は、運動がたやすく体力調査などの記録もよくないことが課題である。</li> <li>・自分の得意な運動に意欲的に取り組むが、そうでない運動には意欲的に取り組む児童の少ないことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の時間を中心に、休み時間なども活用して持久力や縄跳びを中心に、体力の向上を図る。</li> <li>・ボール運動では、さまざまな動きを経験させ、運動に楽しめるようにし、巧みな動きができるようにする。</li> </ul>

健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導や体力測定から健康に関して幅広く学んでいる。</li> <li>健康には運動が大切なことを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「早寝・早起き・朝ごはん」は、体のばかりでなく心の健康に大切なことを指導する。</li> <li>汗が健康の調節に役立っている事を指導する。</li> <li>けがについての本格的な学習は3学期に行う。</li> </ul>
-----------------	--	---

## 6年

	現状	改善に向けての方策
運動や健康安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動への関心は高く、多くの児童が積極的に体を動かしている。</li> <li>体育の学習への意欲や態度もよく、進んで取り組むことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の機会を多くし、意欲のある児童へはさらに取り組めるよう、意欲の低い児童へも、クラスでの運動をする機会を多くすることにより、取り組みやすくする。</li> </ul>
運動や健康安全についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会の表現では、みんなで気持ちを合わせて演技するために工夫することができている。競技においても、友達や5年生と作戦を立て、運動することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の工夫を発表する場を設け、思考判断を深くできるように取り組む。</li> <li>学習カードを活用する。</li> </ul>
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力測定では、握力・ソフトボール投げ・走力が課題である。</li> <li>ボール運動は好んで行っているが、肩を大きく使ってボールを投げることや、握力を使っての運動が十分にできていないことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定遊具を使った握力を使う準備運動を多く取り入れる。</li> <li>リレーやおにごっこなどの多様な動きを生み出す活動を多く行い、楽しみながら技能が身に付く運動を取り入れる。</li> </ul>
健康・安全についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用防止教室で、薬物の危険性や害を学んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気の予防について、普段の生活に活用できるように意識させる。</li> <li>健康についての用語や知識が身に付くように取り組む。</li> <li>本格的な学習は3学期に行う。</li> </ul>